

## LPガスCP速報(2024年9月積)

### 1. 9月積みサウジアラムコLPガスCP

プロパン **605**  $\text{ドル}$  (前月比+15  $\text{ドル}$ )  
ブタン **595**  $\text{ドル}$  (前月比+25  $\text{ドル}$ )

#### ① LPガススポット市況等

LPガス市場をみると、中東市場は、電力、石化需要等内需が増加した産ガス国からの出荷は絞られ、インドの需要増にターム契約優先でスポット販売は限定的となった。インドネシアからの引き合いもあり、原油市況軟化に反して、LPガス市況は上昇した。中国経済の低迷にもかかわらず、石化市況は堅調で、マージン改善によりPDHの稼働率も70%台をキープ、新規プラントも立ち上がり、LPG需要を下支えした。極東CFR市況は、プロパン 650~660  $\text{ドル}$ 、ブタン 640~650  $\text{ドル}$ で堅調に推移した

米国市場は、プロパン供給、在庫が増加、在庫水準は5年平均レンジの最上部に張り付いている(グラフ②参照)。輸出は過去最高水準から減少(グラフ③参照)もハリケーン「ベリル」の影響などから回復し、再び増加してきた。モンベルビュープロパンスポット価格は軟化、月間平均で前月比18  $\text{ドル}$ 下落の398  $\text{ドル/トン}$ どころ(グラフ①参照)となった。原油市況の下落とNGL増産で、供給は潤沢。

フレート市況は軟化、第1~2週で中東~極東40  $\text{ドル}$ 、米国~極東市場は90  $\text{ドル}$ どころで推移した。パナマ運河ガツン湖の水位が回復、通峡枠も増加し、フレート市況を押し下げた。船舶需給が緩んでいたが、第3週以降、米国の輸出堅調でスポット傭船需要が高まりタイト感。米国仕向け増加で、インド需要が下支えした中東市場の市況も上昇した。

ナフサ市況は反落、月間平均は前月比26  $\text{ドル}$ 下落の672  $\text{ドル}$ どころ。原油市況の下落と石化需要の低迷で一時653  $\text{ドル}$ まで下げた。エチレン市況は870~880  $\text{ドル}$ どころでマージンは確保されているが、ナフサ安でLPガスとの格差が縮小、クラッカー向け需要は限定的。

バンカーオイルをみると、シンガポールIFO380は大幅下落、月間平均で前月比41  $\text{ドル}$ 下落の480  $\text{ドル}$ どころ、LSMGO(低硫黄マリンガスオイル)は急反落、前月比53  $\text{ドル}$ 下落の692  $\text{ドル}$ どころ、原油、欧州ディーゼル市況の軟化を受けた。C重油との格差は212  $\text{ドル}$ に縮小した。

9月CPは前年同月比プロパン55  $\text{ドル}$ 、ブタン35  $\text{ドル}$ のそれぞれ上昇。原油(アラビアン・ライト)熱量等価換算(下記参照)では、前月に比べプロパン10、ブタン11ポイント上昇、前年同月比ではプロパン19、ブタン15ポイント高い。

	第1週	第2週	第3週	第4週	平均
フレート(中東-日本)	40	40	60	60	50
CP先物指標:P	595	595	605	605	600
CP先物指標:B	585	580	595	585	586

#### ② 原油市況等

8月の原油市況は急落、一時72  $\text{ドル}$ を割り込み1月以来の安値となった。米、中経済指標の悪化を契機に株価が暴落、リスク回避の動きが強まった。原油市場では、イランによる対イスラエル報復攻撃、ヒズボラとの紛争拡大懸念など地政学リスクの高まりとともに、リビアの原油生産、輸出の減少(日量100万バレル消失の可能性)が市況を下支えした。需要面では、ドライシーズン終盤を迎えた米国の原油在庫が減少し1月以来の低水準となったが、中国経済指標の悪化、需要減退懸念が市況下押し要因となった。一方、原油先物市場では、商品投資顧問業者(CTA)がアルゴリズム取引でロングポジションを手仕舞い売り、下げを加速させた。テクニカル指標の200日移動平均(WTI77  $\text{ドル}$ どころ)は下値支持線から上値抵抗線となっているが、他方、プロンプトスプレッド(期近2限月)の逆ざやが再び拡大、1  $\text{ドル}$ を突破し需給タイトを示唆している。

○8月積みアラビアン・ライト(8月1~29日までの想定)は79.30  $\text{ドル}$ (前月比-6.94  $\text{ドル}$ )

熱量等価AL100% プロパン 650.18  $\text{ドル/トン}$  ブタン 641.26  $\text{ドル/トン}$   
AL比 プロパン 93.05% ブタン 92.79%

\*上記ALはE I N推計、確定値は後日Webサイトでご確認ください。

## 2. 2024年9月LPガス仕切（CP・MBコスト変動分）への影響

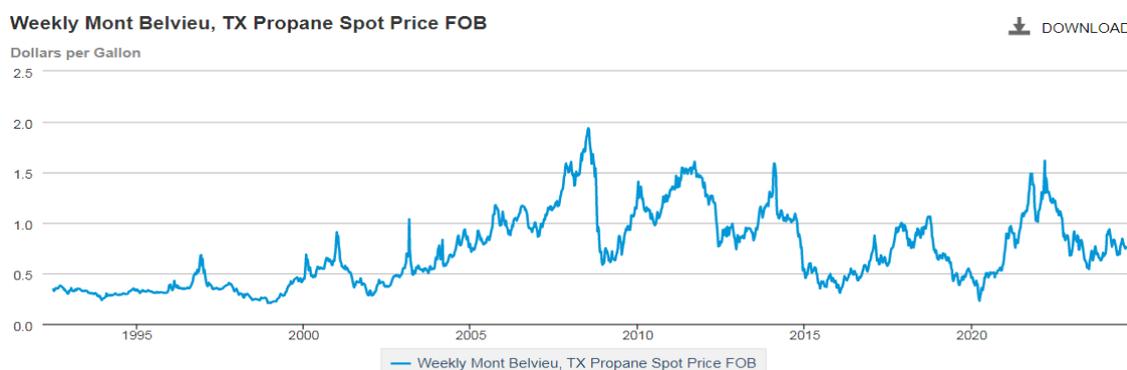
適用為替	T T S	P円建CFR	B円建CFR	P前月比	B前月比
8月月間	147.44	92,600	94,200	-7,000	-5,300

\* T T S平均等について、各社の適用為替レートが昨年4月仕切改定から月間平均に統一された。

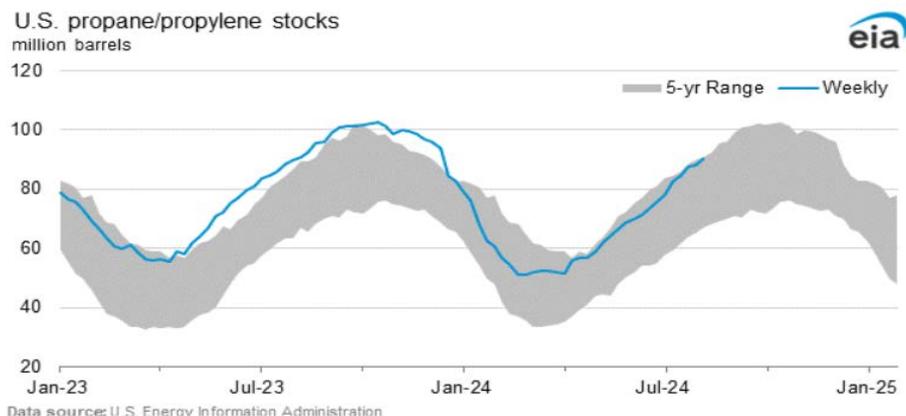
上記は8月1～30日までのT T S平均。CPは前月・当月50%案分。プロパンのMB合成比率はCP70%、MB30%で算定。CFRコストは中東・北米フレートを含むCFRコストを表示。CFRコストには北米の基地経費等も含まれ、各社で異なる。

なお、上記MBは8月28日までの価格を基にE I Nで試算（398ドル/トン）したもので、メーカー各社の最終確定値とは異なる。また、各社の仕切はフレート分、バンカーサーチャージ等の改定やフォーミュラ見直しもなされるため、仕切等の詳細はWebサイトを参照。

### ① 米国プロパンスポット価格推移



### ② 全米プロパン在庫推移



### ③ 米プロパン輸出量推移



出典：EIA